



イノベーションで先へ行く!走れ!未来へ
ON THE RUN!

エラストマーで新事業の領域へ。
そこは時代の少し先にあります。

●医療機器・ヘルスケア機器 ●電子資材 ●新ソリューション

2022年3月期第2四半期 決算概要

2021年11月10日

バンドー化学株式会社



- I . 2022年3月期第2四半期 決算概要
- II . 2022年3月期 業績予想

I . 2022年3月期第2四半期 決算概要

2022年3月期第2四半期 決算概要

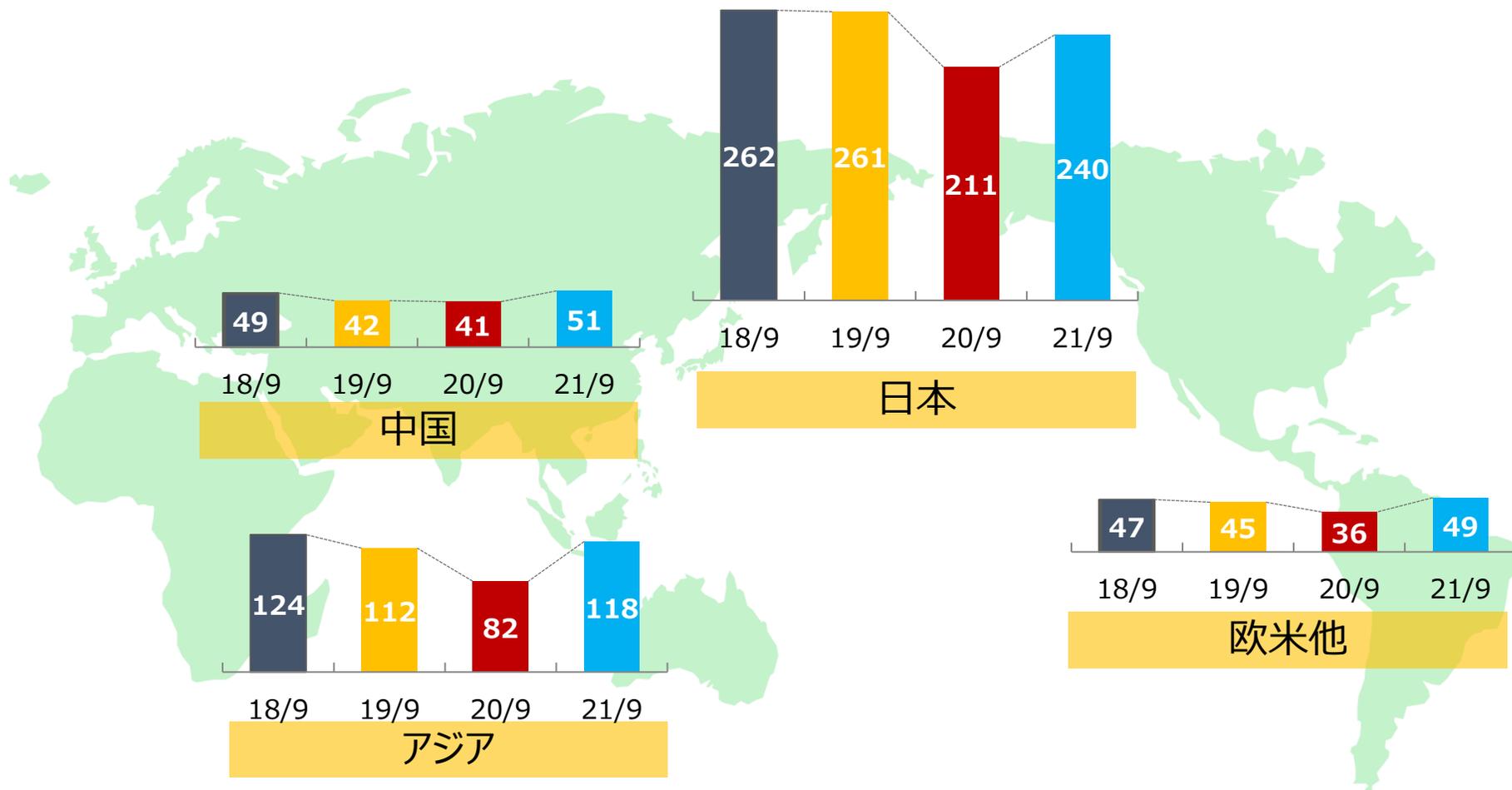


(単位：百万円、%)

		2020/9	2021/9		2022/3	
		実績	実績	前期比	業績予想値	達成率 (対業績予想値)
売上収益		37,116	46,144	+9,027	90,000	51.3%
コア営業利益		1,325	4,376	+3,051	6,000	72.9%
コア営業利益率		3.6%	9.5%	+5.9%	6.7%	
営業利益		1,436	4,847	+3,410	6,500	74.6%
税引前当期利益		1,415	5,077	+3,662		
親会社の所有者に帰属する四半期利益		1,028	3,798	+2,770	4,500	84.4%
為替レート	USD	106.30	110.12		109.06	
	THB	3.37	3.41		3.40	
	人民币	15.19	17.08		16.94	

2022年3月期第2四半期 所在地別売上収益

(単位：億円)

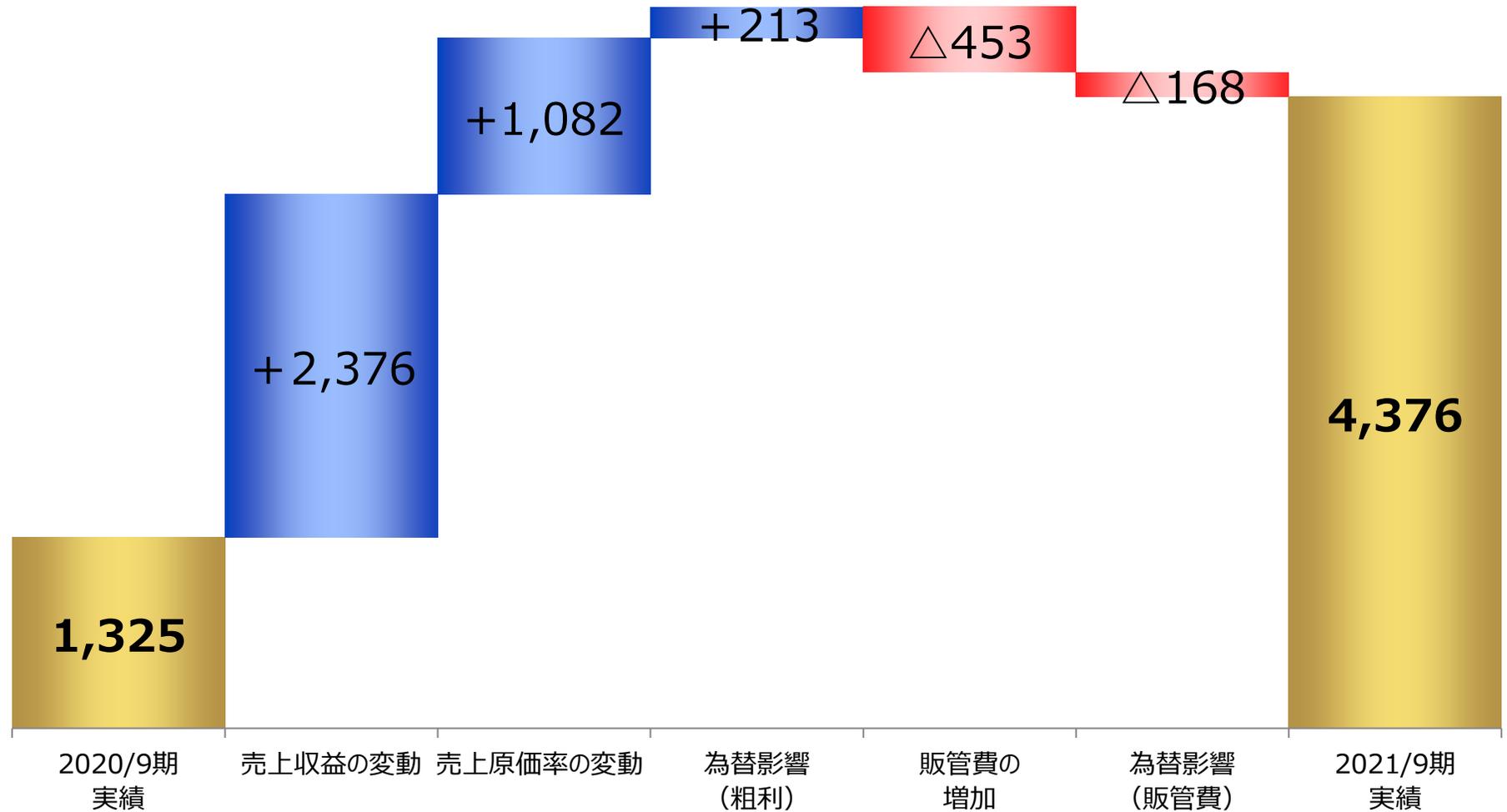


(注)所在地別売上収益はセグメント間取引消去後。

2022年3月期第2四半期 連結コア営業利益 増減分析

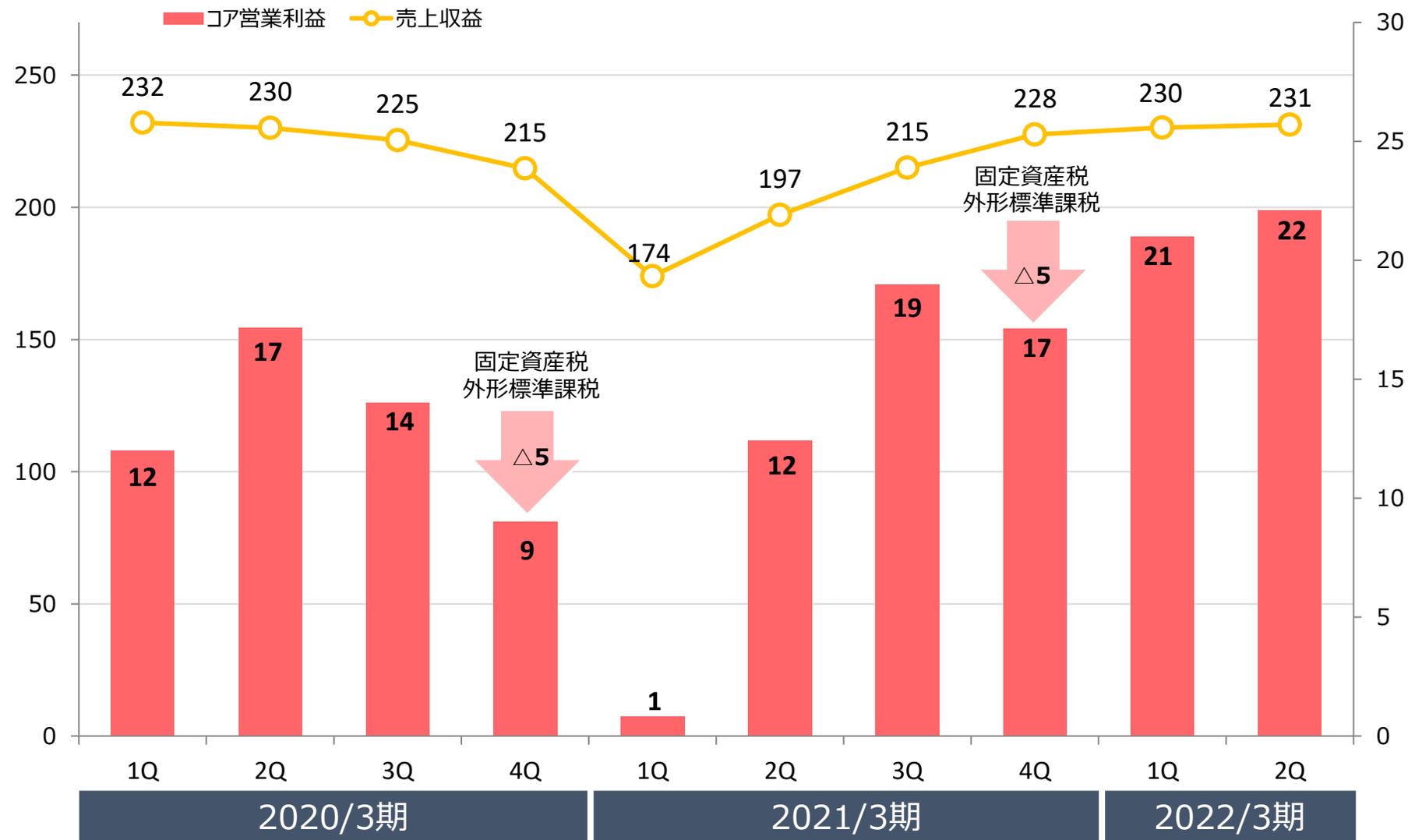


(単位：百万円)



四半期推移 (売上収益/コア営業利益)

(単位：億円)



2022年3月期第2四半期 セグメントの状況

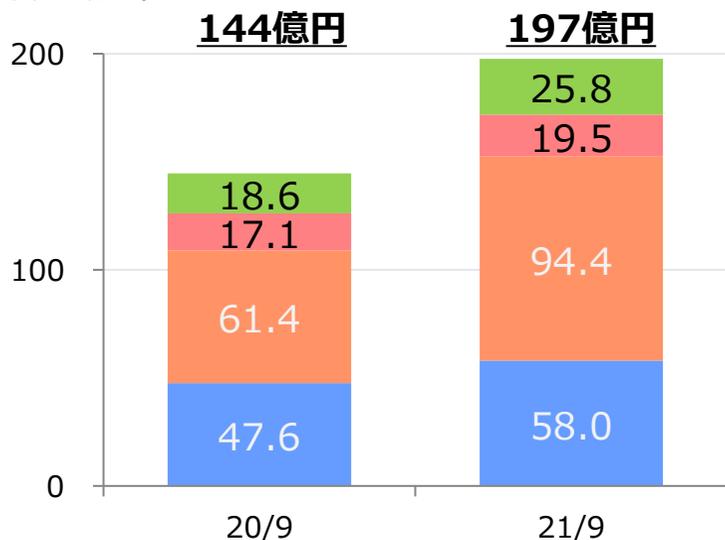


(単位：百万円)

	2020/9	2021/9		
	実績	実績	増減額	増減割合
売上収益	37,116	46,144	+9,027	+24.3%
自動車部品事業	14,484	19,793	+5,309	+36.7%
産業資材事業	15,203	17,163	+1,960	+12.9%
高機能エラストマー製品事業	5,485	7,042	+1,556	+28.4%
その他	2,481	2,581	+99	+4.0%
セグメント間消去	△538	△436	+102	—
コア営業利益	1,325	4,376	+3,051	+230.2%
自動車部品事業	198	1,667	+1,469	+740.0%
産業資材事業	1,081	1,954	+873	+80.7%
高機能エラストマー製品事業	△359	413	+773	—
その他	143	147	+4	+3.2%
セグメント間消去等	261	192	△69	△26.5%

所在地別売上収益

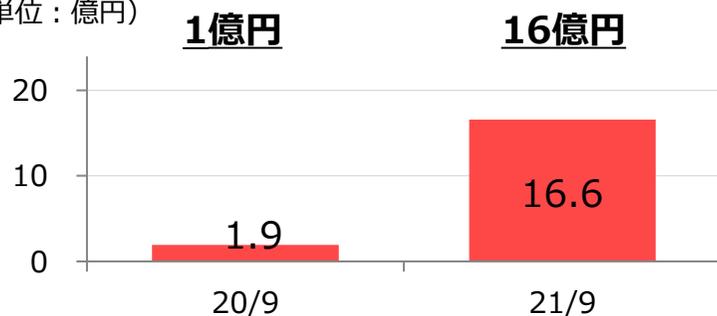
(単位：億円)



欧米他 (+39.0%)	■自動車生産台数の回復により、販売が増加。
中国 (+13.8%)	■主要顧客の生産台数の増加や補修市場への拡販により補機駆動用伝動ベルトなどの販売が増加。
アジア (+53.7%)	■自動車生産台数の回復により、販売が増加。 ■二輪車用変速ベルトの販売も増加。
日本 (+21.9%)	■自動車生産台数の回復や補修市場向け品揃えの拡大により、補機駆動用伝動ベルトおよび伝動システム製品の販売が増加。

コア営業利益

(単位：億円)

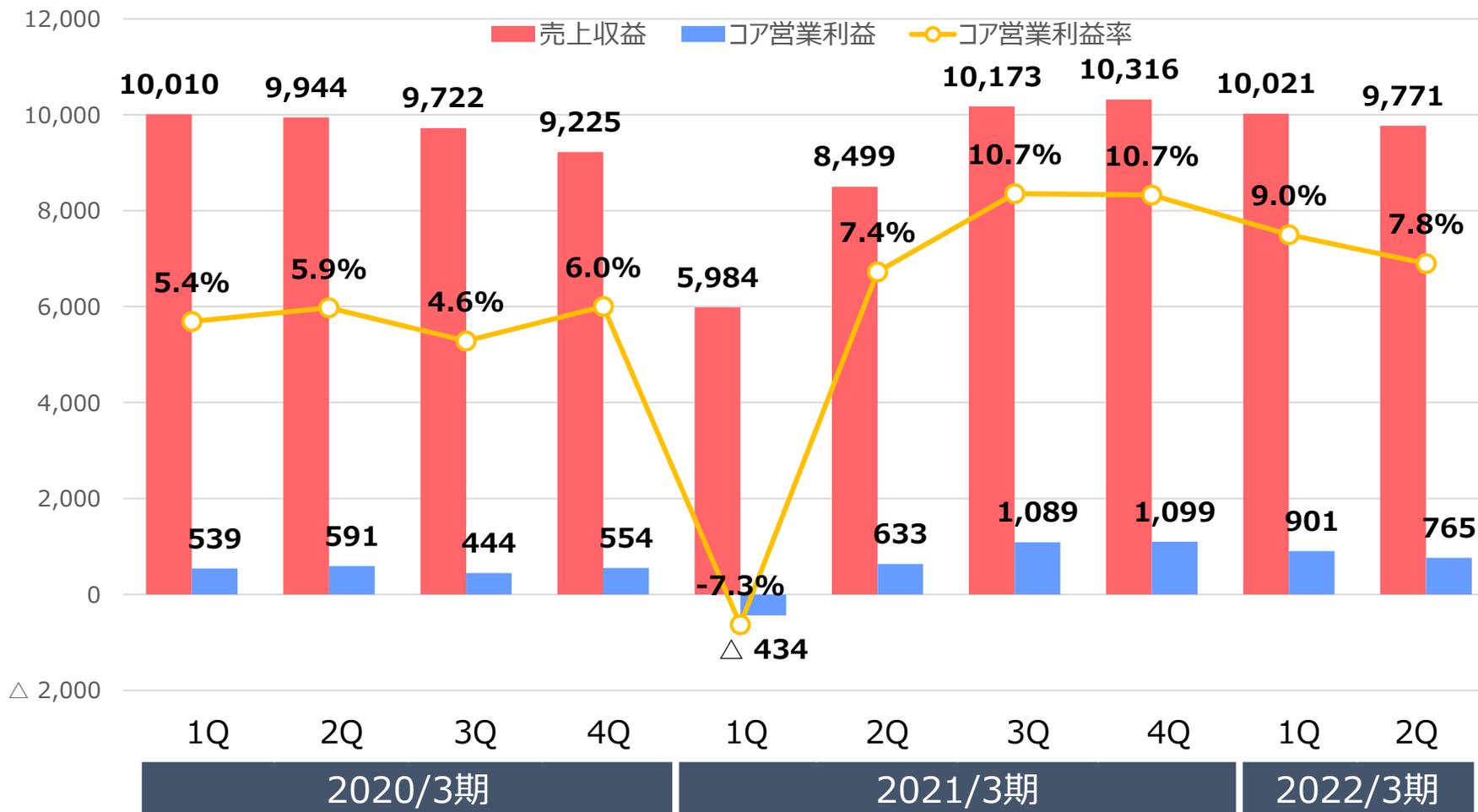


コア営業利益 (+740.0%)	■販売の増加により、利益が増加。
---------------------	------------------

自動車部品事業 四半期推移

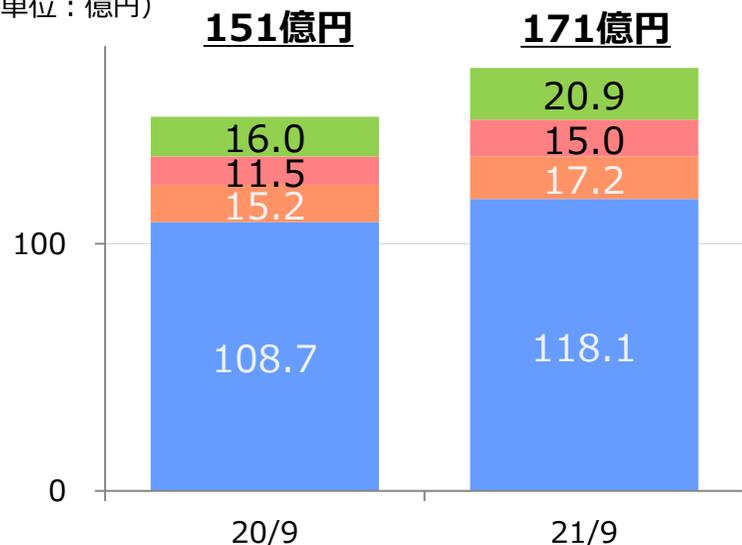


(単位：百万円)



所在地別売上収益

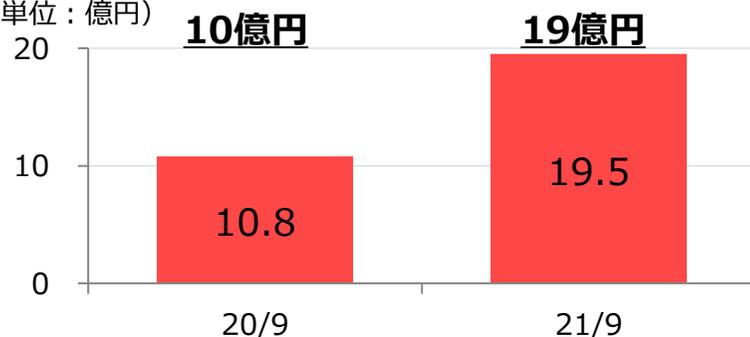
(単位：億円)



欧米他 (+30.9%)	■米国・トルコにおいて、産業機械用伝動ベルトなどの販売が増加。
中国 (+30.2%)	■農業機械用および産業機械用伝動ベルトなどの販売が増加。
アジア (+13.2%)	■農業機械用および産業機械用伝動ベルトなどの販売が増加。
日本 (+8.6%)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 民間設備投資需要が増加したことにより、産業機械用伝動ベルトの販売が増加。 ■ コンベヤベルトおよび樹脂コンベヤベルトの販売が増加。

コア営業利益

(単位：億円)

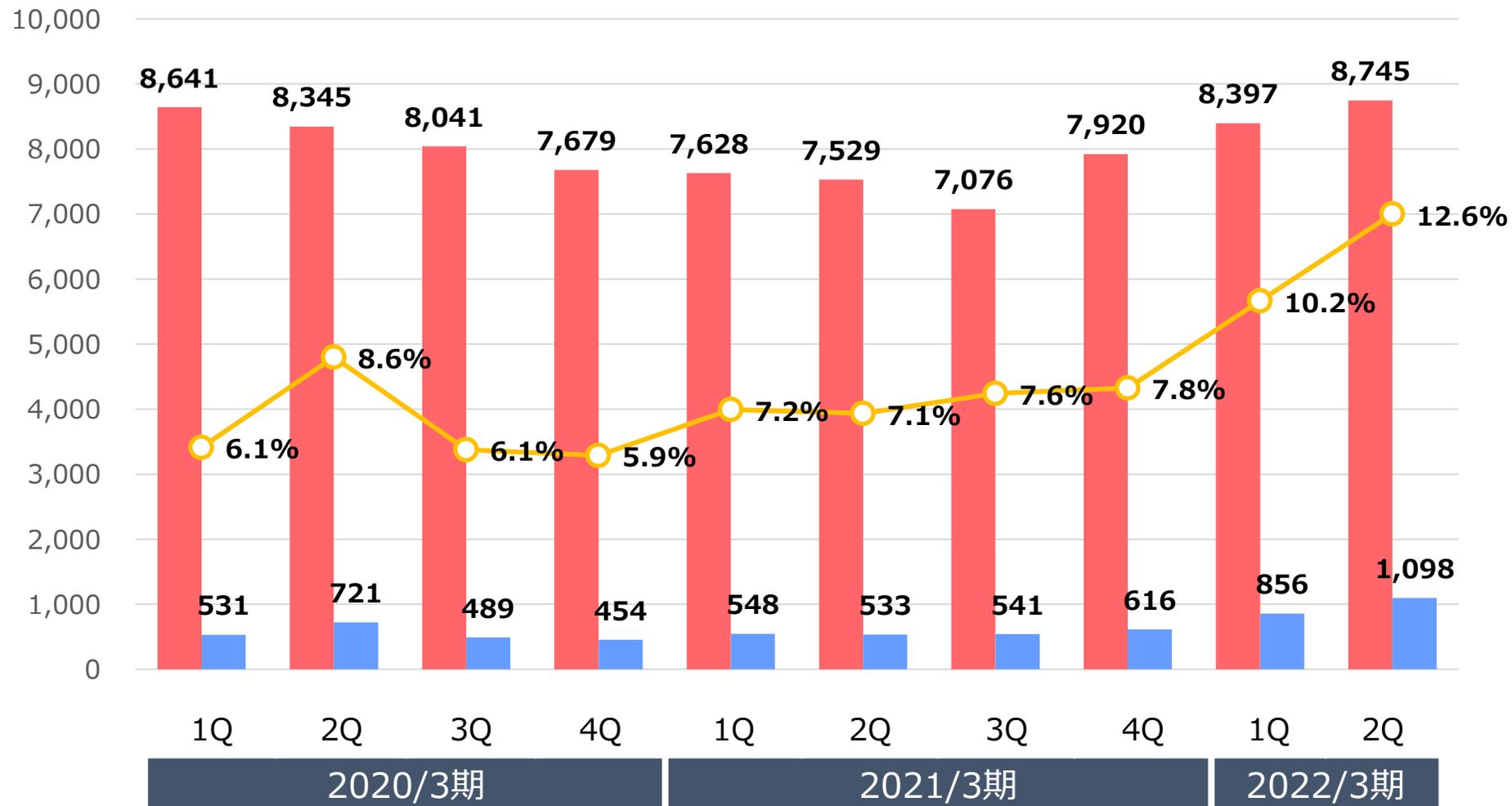


コア営業利益 (+80.7%)	■ 販売の増加により、利益が増加。
--------------------	-------------------

産業資材事業 四半期推移

(単位：百万円)

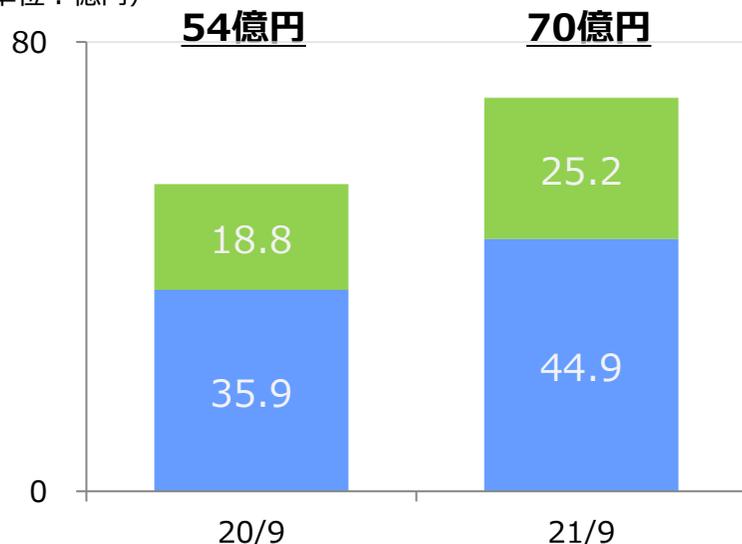
売上収益 コア営業利益 コア営業利益率



高機能エラストマー製品事業 概要

事業別売上収益

(単位：億円)



機能フィルム
(+33.6%)

精密機能
部品
(+25.1%)

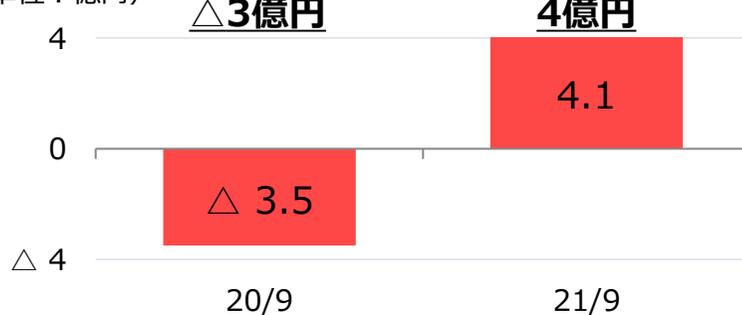
■新型コロナウイルス感染症の影響により一時停滞していた需要が回復したこともあり、建築資材用フィルムの販売が増加。

■医療用および装飾表示用フィルムなどの販売も増加。

■主要顧客の生産回復により、精密ベルト、高機能ローラおよびブレードなどの販売が増加。

コア営業利益

(単位：億円)



コア営業利益
(+7億円)

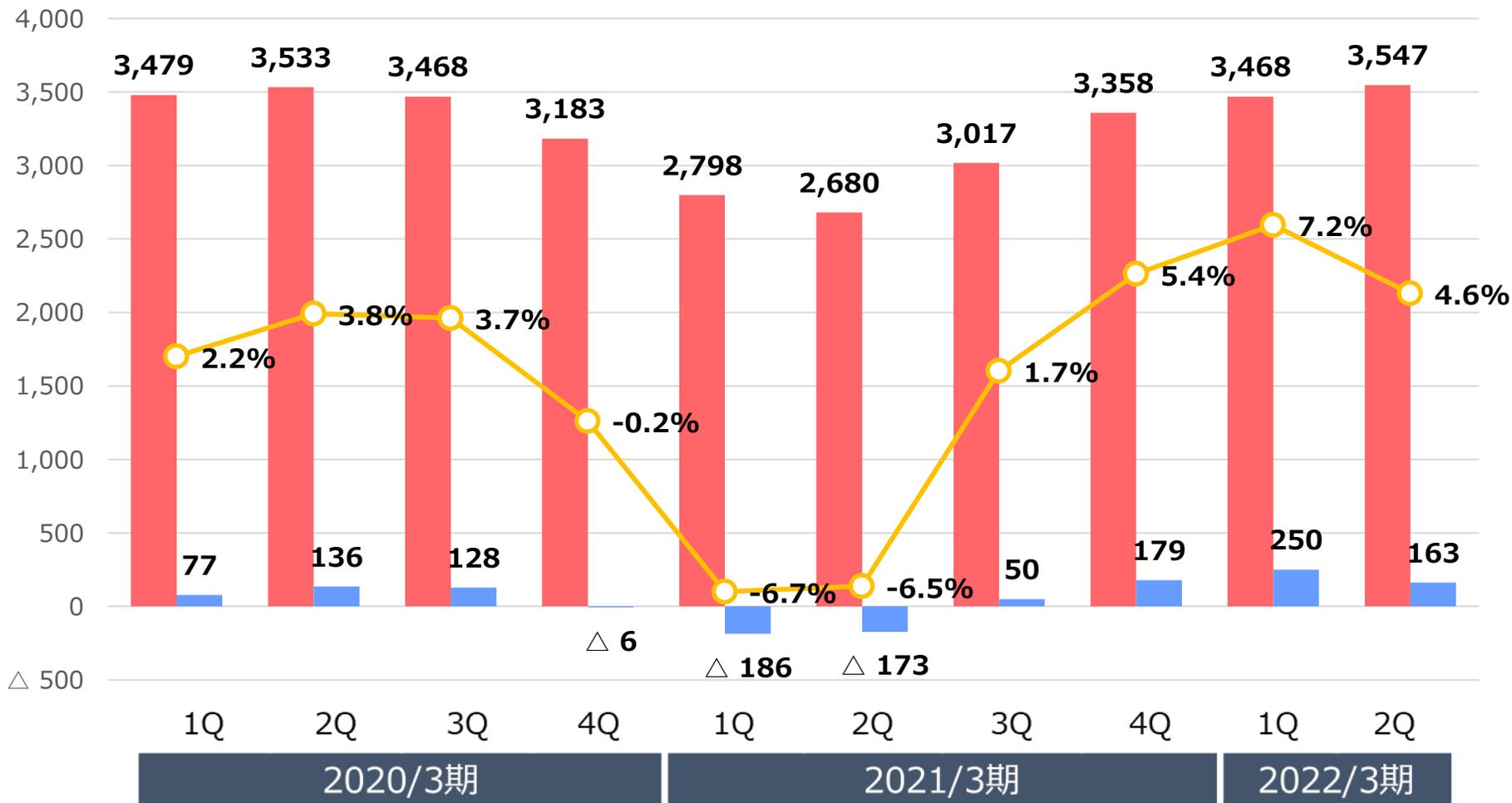
■ 販売の増加により、利益が増加

高機能エラストマー製品事業 四半期推移



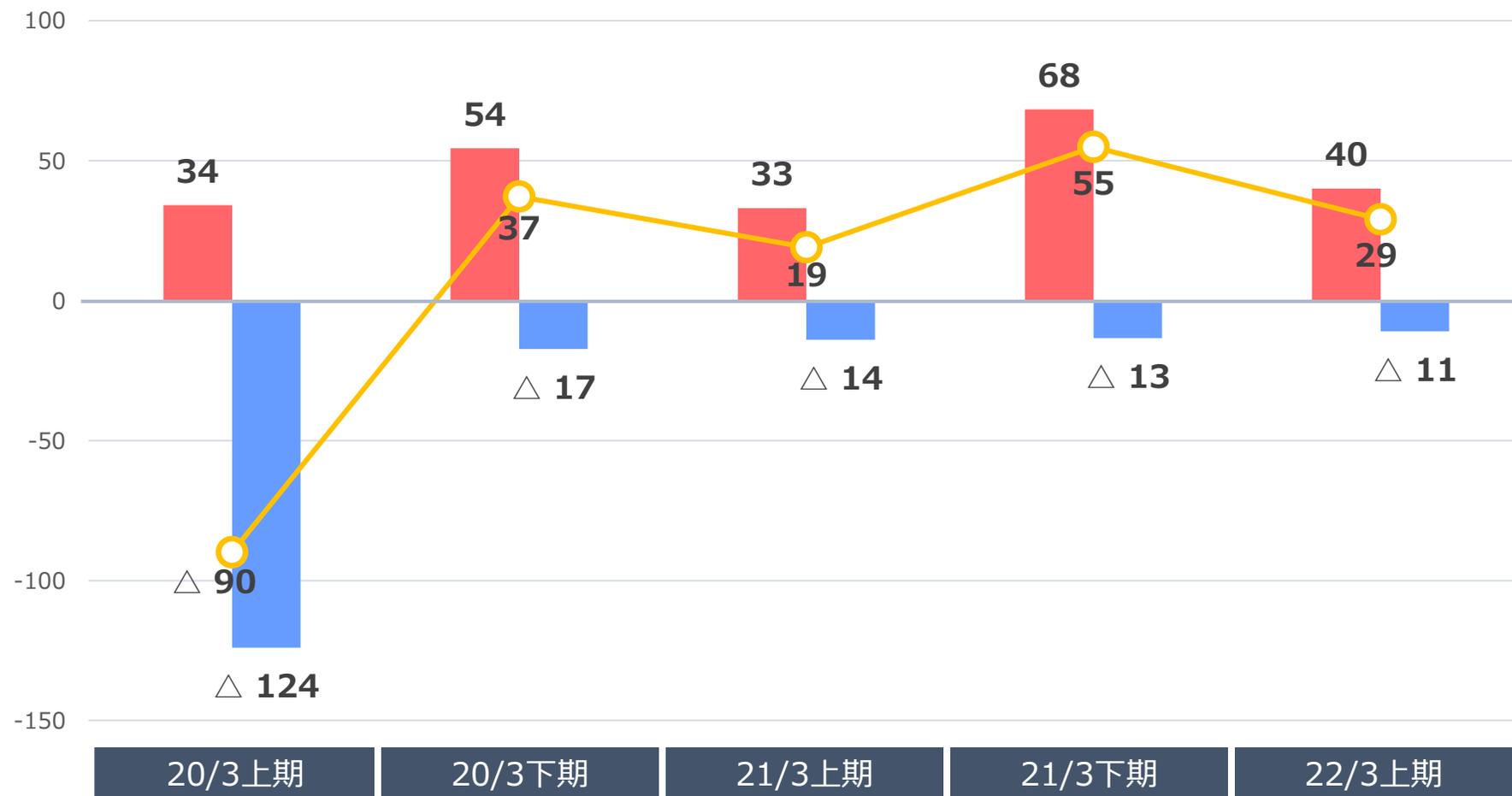
(単位：百万円)

■ 売上収益 ■ コア営業利益 ○ コア営業利益率



キャッシュ・フロー（CF）の推移

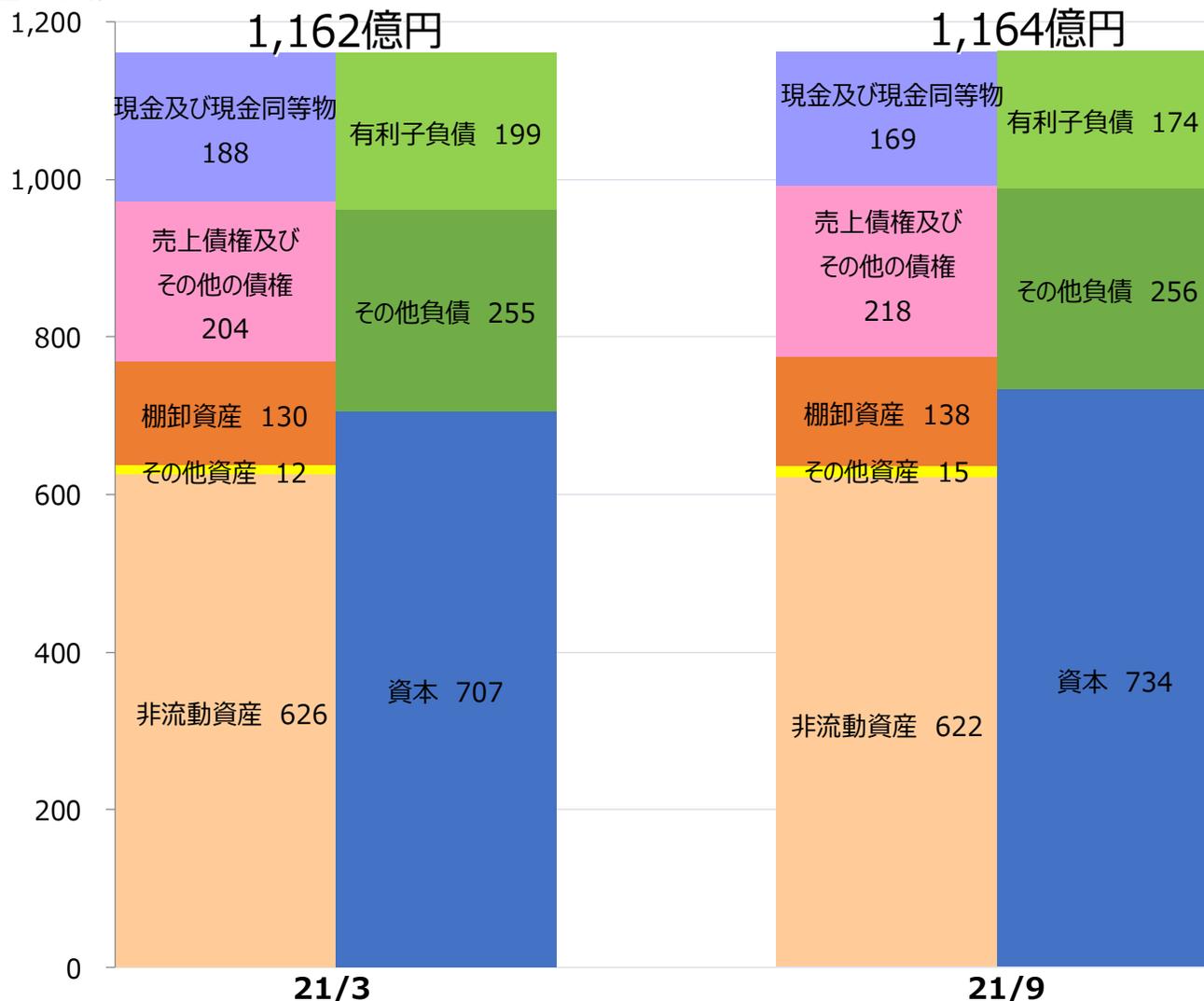
(単位：億円) ■ 営業活動 ■ 投資活動 ● フリーCF



※ 20/3上期の投資活動によるCFには、株式会社Aimedica MMTの取得による支出（92億円）が含まれております。

連結財政状態計算書

(単位：億円)



資産

- 資金繰り悪化懸念の後退を受け、手元流動性を引下げたことによる現金及び現金同等物の減少 (△18億円)
- 売上債権および棚卸資産の増加 (+22億円)

負債

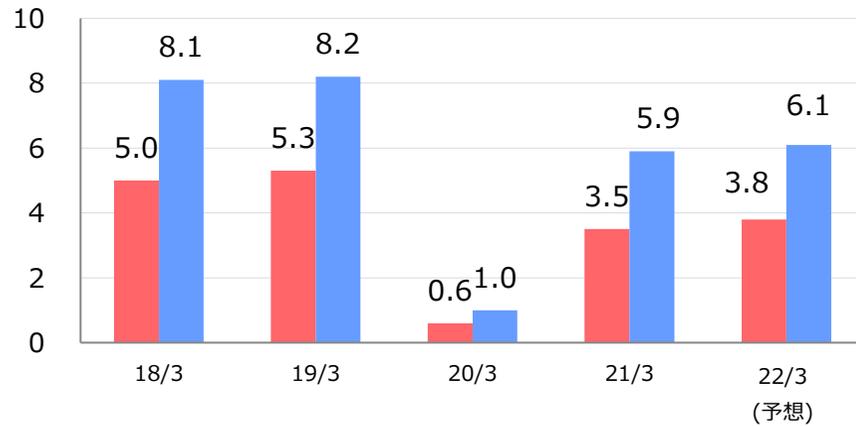
- 資金繰り悪化懸念の後退を受け、手元資金を借入金の返済に充当したことによる有利子負債の減少 (△25億円)

資本

- 四半期利益の計上等による利益剰余金の増加 (+29億円)
- 自己株式の取得による減少 (△4億円)

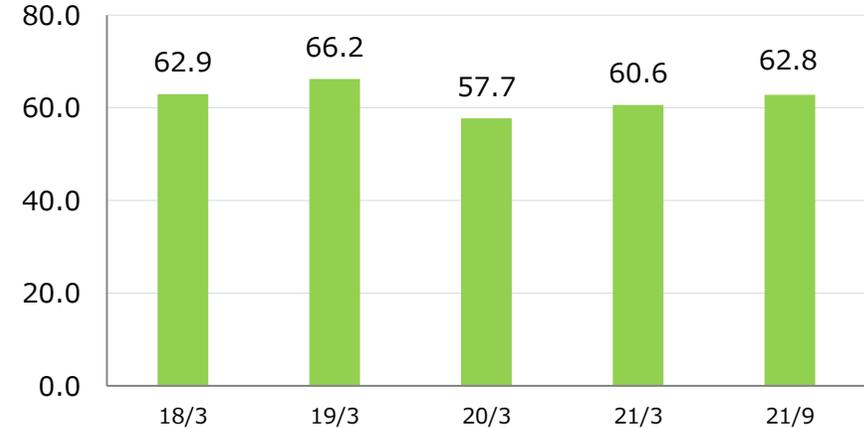
ROA / ROE

(単位：%) ROA ROE



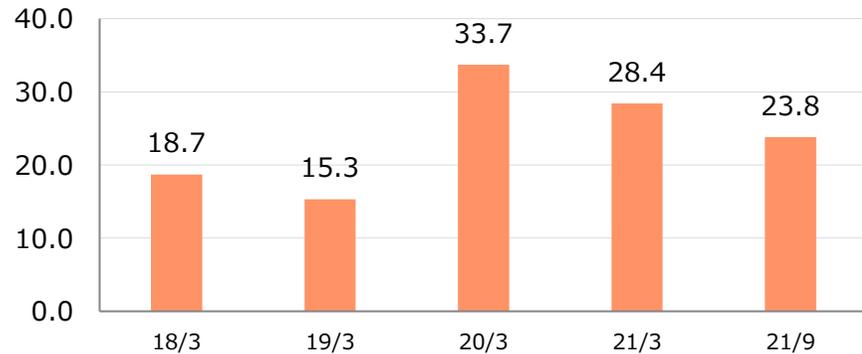
親会社所有者帰属持分比率 (自己資本比率)

(単位：%)



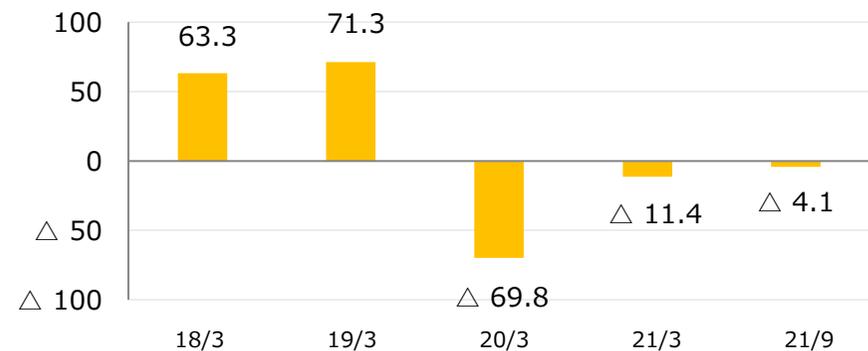
D/Eレシオ

(単位：%)



ネットキャッシュ／純有利子負債

(単位：億円)

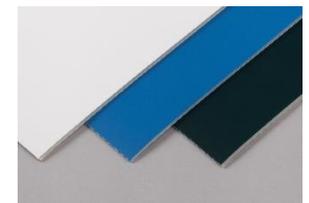


主なトピックス

2021年	4月	<ul style="list-style-type: none"> ● 和歌山工場「災害ボランティアセンター設置場所に関する協定」等を締結 ● 「在宅勤務制度」の対象範囲を全従業員に拡大
	5月	<ul style="list-style-type: none"> ● 「自己株式取得に係る事項」の決定 ● 樹脂製レーシングエンドレス加工「ミスターProジッパー™」を販売開始 ● 耳ほつれ防止加工「ミスターバンシール™」を販売開始
	6月	<ul style="list-style-type: none"> ● 「2021国際食品工業展（FOOMA JAPAN2021）」に出展 ● 連結子会社である株式会社Aimedic MMTが「C-STRETCH®」を活用した呼吸器領域初の医療機器「ResMo®」を販売開始 ● 「新型コロナウイルスワクチン接種休暇」を導入
	7月	<ul style="list-style-type: none"> ● 「紙幣/カード搬送用歯付ベルト UVH仕様」を販売開始
	8月	<ul style="list-style-type: none"> ● 「CSR報告書2021」を発行
	9月	<ul style="list-style-type: none"> ● 高負荷対応歯付ベルト「Ceptor®-X Plus」を販売開始



ミスターProジッパー™



ミスターバンシール™



ResMo®



紙幣/カード搬送用歯付ベルト UVH仕様



Ceptor®-X Plus

Ⅱ. 2022年3月期 業績予想

2022年3月期 業績予想



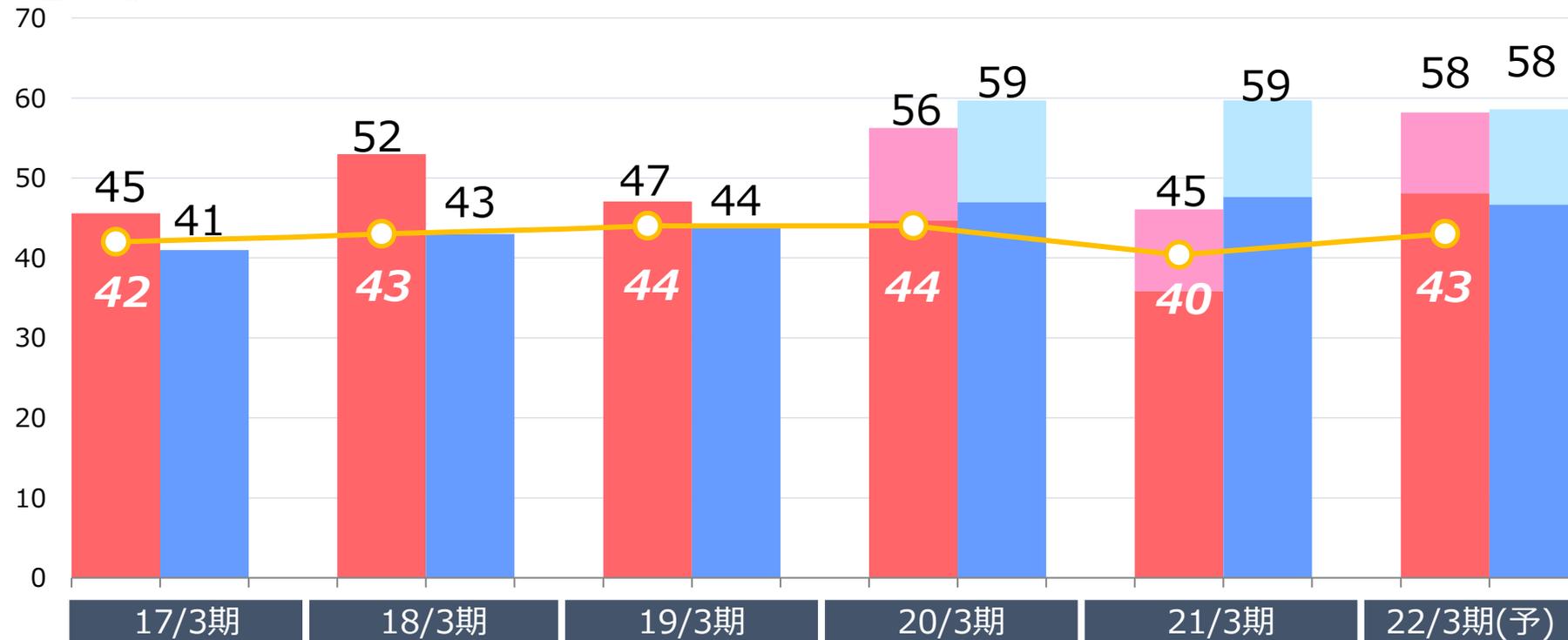
(単位：百万円、%)

	2021/3 実績	2022/3 予想		
			前期比	
売上収益	81,371	90,000	+8,628	+10.6%
コア営業利益	4,938	6,000	+1,061	+21.5%
営業利益	5,377	6,500	+1,122	+20.9%
親会社の所有者に帰属する当期利益	3,943	4,500	+556	+14.1%
為替レート	USD	105.93	109.06	
	THB	3.41	3.40	
	人民元	15.65	16.94	

- 第2四半期までの業績は当初予想を上回って推移しているものの、以下の理由により、業績予想を据え置く
 - 半導体の供給不足による主要顧客の減産や原材料価格の高騰など、依然として業績の下振れリスクが残ること
 - 当社および一部の国内子会社において当年度中に賞与制度の変更を実施することを検討しており、一時的な営業費用が発生する可能性があること

設備投資額、減価償却費および研究開発費の推移

(単位：億円)



■ 設備投資

■ 設備投資 (IFRS16号「リース」適用影響)

■ 減価償却費

■ 減価償却費 (IFRS16号「リース」適用影響)

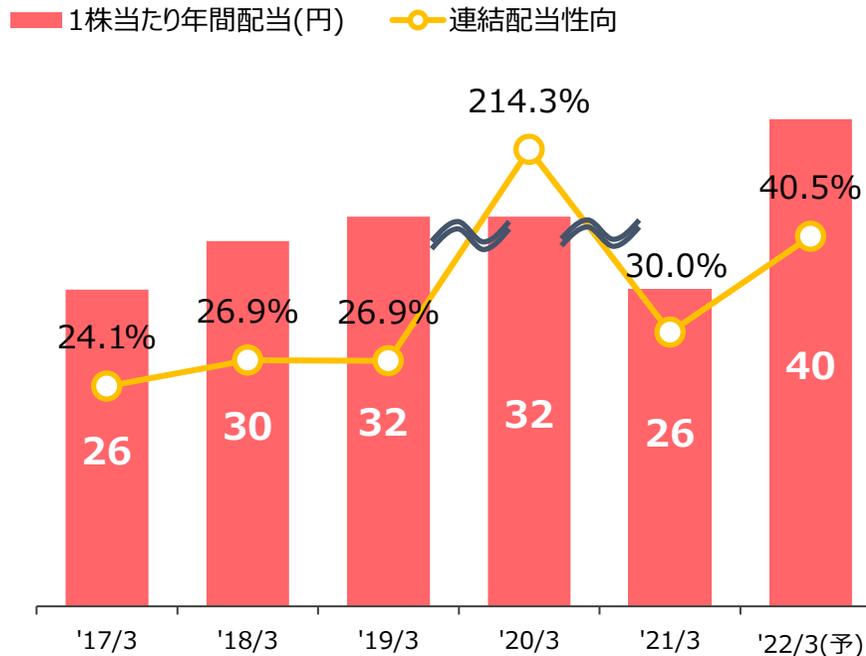
○ 研究開発費(太字・斜体)

さらなる株主還元の充実を図るべく、当年度より株主還元方針を変更

基本方針

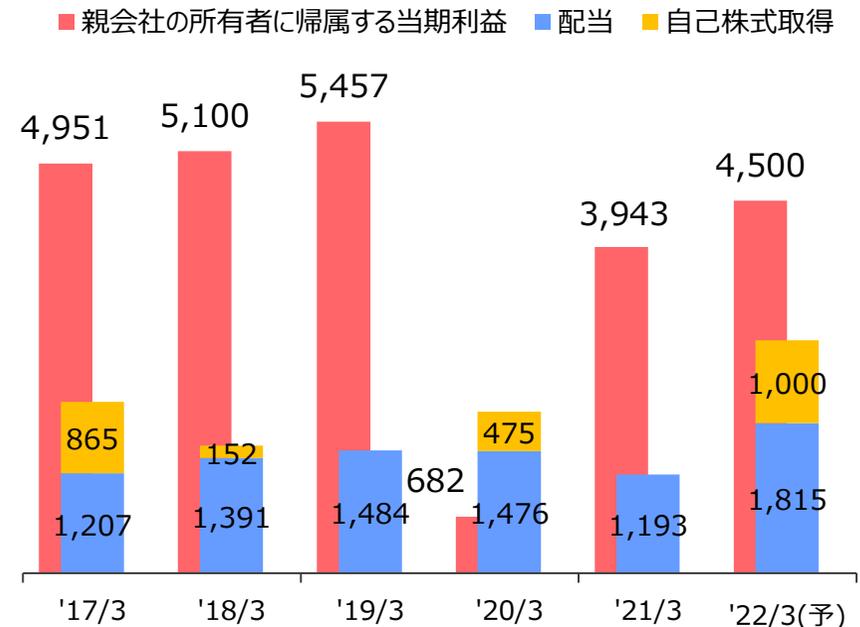
収益および財務状況に配慮しつつ、**当面の間、1株当たり年間配当金額26円を下限として、連結配当性向40%を目処に安定した利益配当を行うことを目標とし、利益還元の充実に努める。**

1株当たり年間配当・連結配当性向の推移



株主総還元の推移

(単位：百万円)



本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化などにより、実際の結果と異なる可能性があることにご留意ください。又、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。